

氏名	安川 純代
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5884 号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	“Ikigai”, Subjective Wellbeing, as a Modifier of the Parity-Cardiovascular Mortality Association - The Japan Collaborative Cohort Study - (主観的健康観 “いきがい” が 出産経験と循環器疾患死亡との関連に及ぼす影響 - JACC Study -)
論文審査委員	教授 増山 寿 教授 伊藤 浩 准教授 岡田あゆみ

学位論文内容の要旨

本研究は、出産回数と循環器疾患死亡との関連にいきがいの及ぼす影響を検討することを目的とした。

JACC study の対象者 110,585 人のうち、既往歴のない 40-79 歳の女性 39,870 人を対象とした。出産回数 (0,1,2,3,4,5,≥6) と循環器疾患 (脳卒中、虚血性心疾患、全循環器疾患) との関連について Cox 比例ハザードモデルを用いて解析した。

追跡 19.4 年間 (中央値) に、循環器疾患 2,121 人を含む 6,389 人が死亡した。出産未経験女性は、出産回数 1 回の女性と比べ脳卒中死亡が有意に高かった; ハザード比 (95%信頼区間) 1.55(1.06-2.27)。「いきがい」の有無別では、「いきがいなし」の女性のうち出産未経験女性において脳卒中; 1.87(1.15-3.05)、全循環器疾患; 1.46(1.07-2.01)、出産回数 6 回以上の女性において脳卒中; 1.56(1.00-2.45)で有意に高いハザード比が認められたが、「いきがいあり」の女性では認められなかった。いきがいのない出産未経験女性は循環器疾患死亡リスクが高いが、いきがいがあれば循環器疾患死亡のリスクになりにくい可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

出産回数と循環器疾患死亡との関連は数々の報告があるが、結果は一致していない。またポジティブな心理的因子と循環器疾患死亡減少との関連は報告があるが、ポジティブな心理的因子の出産回数と循環器疾患死亡との関連に及ぼす影響を検討した報告はない。

本研究では、いきがいの出産回数と循環器疾患死亡との関連に及ぼす影響について、1988-1990 年に自己回答式質問紙調査を用いて循環器疾患やがんの既往のない 40-79 歳の女性 39,870 人を対象に検討した。出産未経験女性ではいきがいのない場合循環器疾患のリスクが有意に高いが、いきがいがあれば循環器疾患死亡と関連なかった。

委員からは、30 年前のアンケート調査による予後調査でありその後の個人及び社会の変化が反映されていないことや周産期因子や社会的因子について質問があった。本研究者は、現在では未婚未出産女性は増加しており、いきがいをもち生活することの重要性はさらに増していること、周産期や社会的な因子の更なる検討が必要と回答した。

本研究は、いきがいの出産回数と循環器疾患死亡との関連に及ぼす影響について調査した初めての研究であり、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。